

アスリートのセカンドキャリアを考える
—新しいキャリア支援の提案—

立教大学 松尾ゼミ A

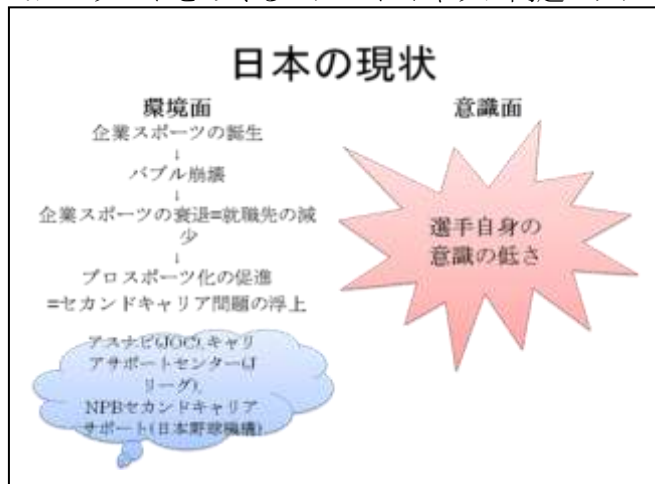
○藤井まち子 小牧康平 深尾理奈
深澤佳也 古海雄翔

はじめに

ごく一般的に企業で働く場合の定年が 60 歳、65 歳辺りであると考え、プロスポーツ選手は働き盛りに定年を迎えることになる。したがって、プロスポーツ選手は不可避免的に現役を退いた後の第二の人生、つまりセカンドキャリアをどう過ごすかという問題に直面することとなる。

そこで本提案では、アスリートが「生活者」として自立的に自らの人生の進路を決定できる能力を獲得し、自らのキャリア形成を少年期から考える態度を身につけることができるような支援策を提案したい。

1.アスリートをめぐるセカンドキャリア問題のメカニズム



1920 年代に企業スポーツが誕生。1974 年の五輪憲章改定によりプロスポーツ化が促進された。1990 年代初頭にバブルが崩壊し、企業スポーツの衰退が余儀なくされた。それと同時にアスリートの就職先が減少し、プロのアスリートは引退後の人生を考えざるを得なくなった歴史的背景がある。

2.セカンドキャリアとキャリア発達アプローチ

1)「文武両道」から「生活者」へ

「文武両道」という言葉に表れている我々日本人の既存の価値観に、「文」と「武」が表す学業とスポーツという要素だけでなく「文」と「武」を内包する「生活者」という要素が含まれていないことが問題なのではないかと考えた。ここで言う「生活者」とは、「生きるためのキャリア設計ができる人」と定義する。

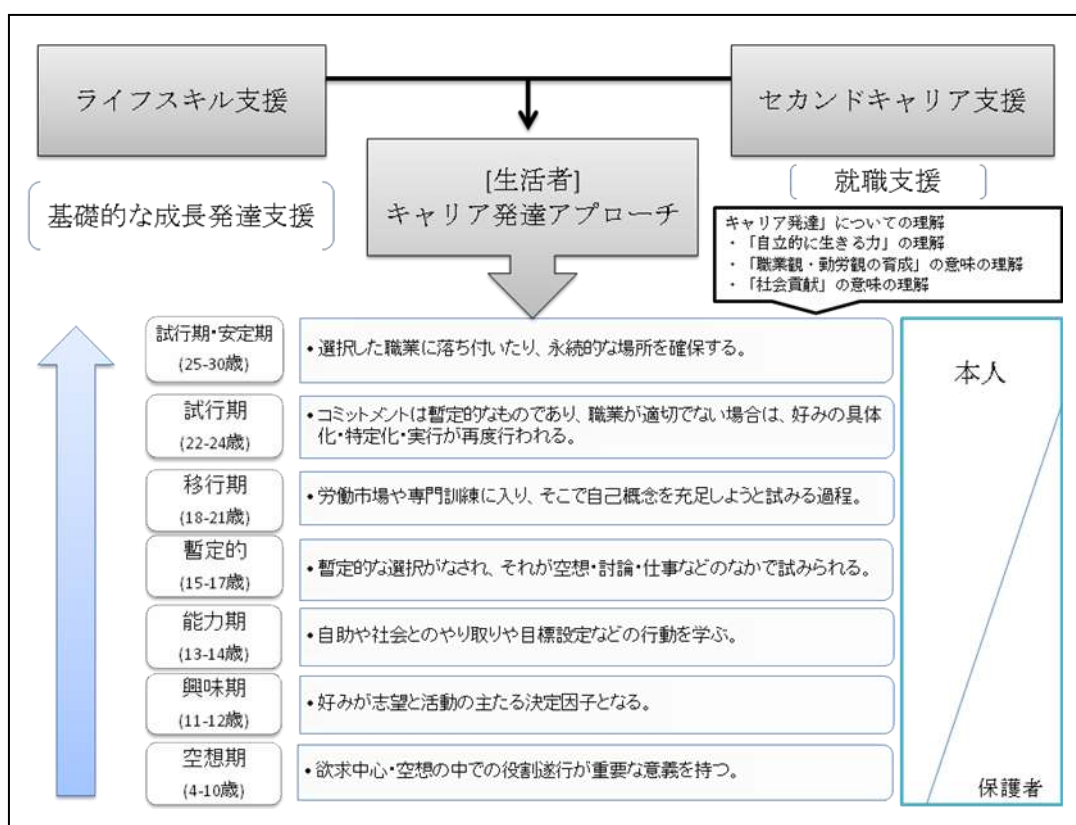
2)ライフスキルとキャリア発達アプローチ

(1)ライフスキルとは、「日常の様々な問題や要求に対してより建設的かつ効果的に対処するために必要不可欠な能力と定義づけた技術のこと。」(WHO の定義)

(2)キャリア発達アプローチとは、「各人が自己のキャリアを構築する(キャリア行動)という責任を果たすために必要な能力や態度があり、その能力や態度は他の発達の側面と同様、段階を追って発達させられるという視点である。」(渡辺三枝子,2007)

→アスリートを「生活者」の視点からとらえ、セカンドキャリア支援(就職支援)とライフスキル支援(基礎的な成長発達支援)のあいだをつなぐキャリア発達アプローチが求められている。

3.支援策「キャリア発達アプローチによるキャリア支援」



[具体的な取り組み]

- ・キャリア発達アプローチによるキャリア教育を発達段階に従って適切に支援していく。学校においても保健体育授業[体育理論]の教材化をはかる。
- ・青少年期の各大会や競技会時にキャリア教育に関する講演会を開催する。なかでも少年期においては保護者の影響が強いため保護者セミナーを合わせて開催する。
- コンセプト：全てのアスリートがアスリートである前に一人の「生活者」である。

「Best Person makes Best Performance」

<資料・文献>

- ・「ライフスキル」 <http://www.genkipolitan.com/life/>(2011/9/11)
- ・渡辺三枝子・鹿嶋研之助・若松養亮(2010) 学校教育とキャリア教育の創造、学文社。
- ・渡辺三枝子(2007) 新版 キャリアの心理学、ナカニシヤ出版。